

「臨床検体から分離された侵襲性感染症原因菌の分子疫学解析と薬剤耐性化の経年的推移に関する研究」について

当院臨床検査技術科では東京医科大学にて実施されている下記研究への協力を行います。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、5. お問い合わせ先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

1. 研究の対象

全国の医療機関所属の臨床科医師・検査部（技師）より解析依頼を受けた菌株

2. 研究目的・方法

ヒトに感染症を引き起こす微生物は細菌・ウイルスなど多岐にわたり、それぞれの病原性のレベルも様々です。近年再び感染症が注目されていますが、以前にも増してグローバルな視点に立ちその本質を基礎と臨床の両面から明らかにしていくことが要求されています。皆保険制度下の我が国では感染症の動向を調査・監視をおこなうこと（サーベイランス）が比較的容易にできる環境下にあります。昨今市中型感染症のなかでも特に大規模サーベイランスによって呼吸器感染症の実態を明らかにしていくことが強く求められています。

当研究室では、ヒトの予後に影響する病原性の高い細菌・ウイルスに関して遺伝子レベルでその詳細を明らかにする検索手法とまれな細菌の同定技術を確立しています。そのため、それぞれの医療機関において研究の対象である侵襲性感染症例から起炎菌と推定される細菌が分離された場合、依頼検体としてお送りいただき、その詳細解析（①遺伝子レベルでの菌種同定、②DNAレベルの病原因子の解析、③遺伝子解析による薬剤耐性の解析）を行って結果を速やかに報告し、加えて一定期間後に細菌学的ならびに症例の背景解析等を実施してまとめて公表し、社会貢献をすることを目的としています。

研究期間：2021年3月11日～終了（予定2026年3月31日）

（当院における研究期間：病院長許可日～2026年3月31日）

解析項目（方法）

- ①肺炎球菌（*Streptococcus pneumoniae*:Spn）：PCRによる耐性遺伝子解析と血清型別
- ②*Streptococcus pyogenes*(GAS)、*Streptococcus agalactiae*(GBS)：菌種の再同定とemm型別

③ *Streptococcus agalactiae*(GBS) : PCRによる耐性遺伝子解析と莢膜型別

④世界の菌株と比較するための multilocus sequence typing (MLST 等)

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：①検体材料採取日、②年齢、③性別、④受診科、⑤疾患名、⑥菌株検査材料、⑦症例関連情報（血液検査値、肺炎球菌ワクチン接種歴、確定診断名、バイタルサイン、基礎疾患/並存疾患名、発症環境、重症度、転帰情報等）

試料：分離菌株

侵襲性感染症が疑われた患者の無菌検体材料（血液・胸水・髄液・間接液・深部組織等）から分離された以下に示す細菌

- ・肺炎球菌 (*Streptococcus pneumoniae*:Spn)
- ・ *Streptococcus pyogenes*(GAS)
- ・ *Streptococcus agalactiae*(GBS)
- ・ *Streptococcus dysagalactiae* subsp. *equisimilis*(SDSE)
- ・ 上記以外の連鎖球菌あるいは菌種名が不確かな連鎖球菌

4. 研究組織

研究責任者	東京医科大学微生物分野	中村茂樹（主任教授）
研究分担者	東京医科大学微生物分野	大楠清文（教授）
		宮崎治子（准教授）
		高田美佐子（助手）
		生方公子（客員研究員）

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

住所：〒438-8550 静岡県磐田市大久保 512-3

電話：0538-38-5000（内線 2850）

研究責任者 臨床検査技術科 細菌検査室 黒田 志保

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所：〒160-8402 東京都新宿区新宿 6-1-1

電話：03-3351-6141（内線 242）

専用 e-mail : str-ipd@tokyo-med.ac.jp

研究責任者 東京医科大学微生物分野 中村茂樹（主任教授）